

「現代国語」における「書くこと」(作文)

の年間指導計画について

——好学社版「現代国語一」を教材として——

小田 光 義

目 次

- 一 はじめに
- 二 年間計画作成の手順
 - 1 出発点
 - 2 一年で予定する学習活動
 - 3 学習活動の目標の設定
 - 4 練習単元としての教材とのかみ合わせ
 - 5 作文の時間数
- 三 年間計画の概要
 - 1 各学習活動について
 - A 表現の基礎学習
 - B その他の学習活動
 - 2 指導時期と配当時間

- 四 具体的な指導法(展開例)
- 五 問題点としての評価、その他
- 六 おわりに

一 はじめに

「作文を主とする学習、および聞くこと、話すことを主とする学習は、計画的に指導するようにする。この際、作文を主とする学習には、各学年とも年間授業時数の五分以上を充てるものとし、……」これは、学習指導要領・国語の「現代国語」の中の「留意事項」として示された一部分である。「書くこと」すなわち作文学習の指導は従来も要請されてきたところであるが、しかし今回ほど明確に示

されたことはない。「計画的に」しかも「年間授業時数の2/10以上を充て」て指導することをはっきりと要請しているのである。

今まで、私は作文の指導をはたしてどの程度行なってきたであろうか。考えてみると、そのそしさにひとり恥ずかしさを覚えてくる。いろいろな理由はあろうが、立てようとして立てえなかった、年間を見通しての計画が要因の一つであることは事実である。

新指導要領の実施にあたり、その要請するところのものを、いかに実現してゆくか、そのために「書くこと」(作文学習)の年間指導計画を立てるとしたら、どのようなものが考えられるであろうか。今それを考えてみる機会を与えられたのを幸いにして、不十分ながら、一とおりの指導計画を考えてみたのである。それについて、あらかじめ次のことについておことわりしておきたい。

1 作文指導計画は高等学校三年間を見通した上で立てるのが最も理想的であり、必要でもあるけれども、この計画は一年生を対象とした一年間のみの計画である。

2 この計画は、教材として、私の学校で使用を予定している好学校版「現代国語」を利用している。

3 そのため、計画作成にあたっては、国語科の先生方の全面的なご協力をいただいた。

二年間計画作成の手順

年間計画の作成にあたっては、周到な配慮を必要とし、種々様々な包含されるべき内容が十分検討されなければならないわけであるが、ここでは、一応作成にあたって取った手順の大体を述べてみる

ことにする。

1 出発点

まず、計画作成について最も大きなよりどころとなるのは学習指導要領である。いや、すべては指導要領が出発点であるというべきであろう。その指導要領・国語の中の「現代国語」の中に「書くこと」に関する各項目が見られるが、その基本目標として、「目的や場に応じて、思想や感情を、正しく効果的に文章に書き表わすことができるようにする。」(同・1目標(4))がある。以下、2内容・の中の、A「書くこと」として、(1)指導事項ア1ヶ (2)学習活動ア1エ (3)考慮事項ア・イがある。その他、Bことばに関する事項があるということ、よく知られていることで、ここでこれ以上改めて述べる必要もないことと思う。

さて、この指導要領に要請されていることを作文指導計画にどのように具体化してゆくか。この年間計画を立てるについて、私は松隈義勇氏のお考えを多く参考にしたので、以下少しスペースをとるが、その必要な点だけでもあげておきたい。

指導計画に盛り込むべき事項(抄)

まず、学習指導要領に即していえば、学習内容として、「指導事項」と「学習活動」と「考慮事項」と、それから「ことばに関する事項」(B項)とがある。これらは、絶対に落してはならない、いわば必須事項である。これらの中からそれぞれ一、二の事項を選び、これを総合して、系統を立て、生きた学習活動を計画すればよいのである。しかし、実際問題としては、学習指導要領の中のこれらの事項だけでは、何となくものたりなさを感じる人が多いかと思う。作文とは、そのほかに、取材・主題・構想・叙

述・推敲というような「技能」の面がたいせつだとされている。それから、通信文・記録文・説明文・論説文・感想文・随筆・詩などという「文種」(ジャンル)をも必ず考えることになってくる。これらも、指導計画の中に盛り込むのがよいであろうが、それにはどのように考えたらよいだろうか。以下各項目について簡単に述べてみよう。

(1)「指導事項」

態度や技能について述べてある。

(2)「学習活動」

「通信・記録など」から「論説など」までは文章形態による分類を主として示し、最後の「感想・感動など」は表現の素材的要素を示したものである。

(3)「ことばに関する事項」

ことばを正確に使うことを中心にして表現に即して指導しなければならぬ。

(4)「考慮事項」

「メモ・要約・抜粋・詳述など」が作文学習の場となることを示した項目と、「文章を練ること」すなわち推敲がたいせつであることを示した項目とがある。

(5)技能

取材・主題・構想・叙述・推敲

これらは、作文学習の技能的な要素と考えられている。これらを忘れては、作文学習はなりたないような気さえる。しかし、実は、学習指導要領の「指導事項」および「ことばに関する事項」「考慮事項」の中にこれらは落ちなく巧みに盛られて

いるのである。したがって、上記学習指導要領の(1)(2)(3)(4)の各項を盛り込めば、いやでもこれらの技能面の諸要素は指導計画の中にはいつてくることになる。

(6)文種(ジャンル)

すべての文種にわたろうと考えることを止めて、それらをできるだけしぼって、種類の性質の異なった文章をもって代表させることを考えなければならない。そうしてみると、学習指導要領の「学習活動」にあげられた「通信・記録など」のような形におさまることになるのである。

以上(1)から(6)までの各項目の中から適宜選んで、これを組み合わせ、その間の脈絡を考えながら、生徒の能力の発達段階に応じて順序立てたときに、いわゆる系統ができるわけである。

(学燈社「高等学校国語教育実践講座」(3)四九―五二頁)

2 一年で予定する学習活動

こうして、各事項の適切な組み合わせがなされて、具体的な指導の形態として出てくるものが学習活動の内容である。

もちろん、指導要領の中にあげられているすべての事項は、三年間において身につけ深めてゆくべきことがらである。その意味からも、三年間にわたる総合的な指導計画の作成の必要が理解されるわけであるが、ここでは一応一年間のもののであることは、先にことわったところである。

そこで必然的に考えられなければならないことは、一年の段階においては、少なくとも、何をどの程度には指導すべきであるか、また指導できるであろうかということである。もちろん学習主体として

の生徒の質・環境その他さまざまな現実の要素や立場や配慮によって考えてゆかねばならないので、一樣には決定しがたい問題であらうと思われる。一応、私は一年で予定する学習活動として、次の内容を考えてみた。

- 表現の基礎学習
- 通信・記録
- 説明
- 感想
- その他

3 学習活動の目標の設定

指導要領の各事項を考えて、その学習活動の中における具体的な指導目標を設定しなければならない。この場合、やはり松隈氏が述べておいてになる、「ある単元なり、ある時間なりの学習活動については、たくさんの能力に関係することができ、したがってたくさんの目標をめざすことができるのであるが、そのうち最も重要であり、その学習活動を行なう意義はここにあると考えられる、一、二の目標を取りあげ、学習活動の中心をそこにしほって指導計画を立てるべきである。欲ばることは禁物である。目標を欲ばった学習指導で成功したのを見たためしはない。」(実践講座③四七ページ四八ページ)が最も参考になる。従来の私達の作文指導がうまくゆかなかつた原因を考えてみるよりなすける考え方である。各学習活動において、指導の目標をできるだけ簡明にし、簡潔を少なくしたのはそれに従ったものである。

4 練習単元としての教材とのかみ合わせ

次に、こうして決定された一年における学習活動を、練習単元(教材)とどのようにかみ合わせて、実際の指導の場に実践してゆくかということが問題となる。これについては一応二つの方法が考えられる。

(1) 全く独自の作文教材を考えて、自由にこれらの学習活動の内容を生かす指導計画を作る。

(2) 教科書の中に見られる作文関係単元、あるいは教材や項目をできるだけ生かした形で計画を作る。

(1)の方法は、非常に特色のある個性的な計画が立てられると思うが、それだけにまた、非常な努力と能力を必要とするかと思われる。現在、使用を予定されている「現代国語」の教科書のほとんどは、何らかの方法で「書くこと」に関する事項や単元を取りあげ、設定している。その点、一般的には(2)の方法をとる方が便利であろうと考えられる。私もこの方法をとって、使用予定の教科書における単元とのかみ合わせをできるだけ考えてみたのである。

5 作文の時間数

今一つ考えておかねばならないことに、時間数の問題がある。前述したように、指導要領には、「年間授業時数の $\frac{2}{10}$ 以上を充てるものとし」と示している。この $\frac{2}{10}$ 以上はあくまでも授業時数であって、指導内容の量をいうのではないことも説明されている。だから、一年の「現代国語」を3単位(3時間)とすれば、少なくとも21時間以上を充てることになる。しかもいろいろな説明によると、大体、2、3時間は多く予定することが望まれているように

第一表 学習活動別作文指導計画表（1年）

	エを動感想 表を文など わ書き章感感	ウ論説 書などを くを	イ報説 書などを くを告明	ア記通 書などを くを録信	学習活動		事項指導 事項考慮 ことばに する事項	単元 主とす る学習	教材 題 材	時間 学期	三二 年年
					表現の基 礎学習	一年で予 定する学 習活動					
	感想		説明	通信録	表現の基 礎学習	一年で予 定する学 習活動	事項指導 事項考慮 ことばに する事項				
オエ	キオア カエ		カエイ キオウ	キオウ クカウ	ケオウ カエ						
詳抜要メ 述粹約モ	ア		イ	ア イ	イ						
	カ			ア	カ						
他の単元 その戯論他 と曲説と 聞くと (RH)	詩と隨筆 小説(一) 小説(二) (R)		作文 と書く (W)	記録 と読む (R)	作文 と書く (W)		教	材	題 材		
○科学の 方法 その他	○樹下 ○鼻 ○城の崎にて		作文教室	デカン高原にて	(文章と個性) 作文教室 (文章について)				○スポーツの意義 ○クラブ活動について ○手紙 ○討論会の記録 ○自然観察の記録		
要約文(要旨 あらすじ その他)	○表現についての感想 ○「鼻」をよんで ○ここに扱われた死 の問題について		○クラブ紹介 ○私の友 A君								
4	5.5		4	3.5	7						
三二一	二一		二	一	二						
詳抜要メ 述粹約モ	感感 動想	論 説	報説 告明	記通 録信							

ある。学習活動の内容に応じて、どう時間配分をしてゆくか、考えるべきことからの一つである。

三 年間計画の概要

以上のような、大体の手順をふんで、作成した基本的な計画表が、

第一表 「学習活動別作文指導計画表」(1年)

第二表 「教科書単元別作文指導計画表」(1年) (現代国語1
好学社)

である。

第二表 教科書單元別作文指導計画表（二年）（現代国語一・好学社）

（注）略号

WR 読むこと
WH 聞くこと
RW 書くこと

学期	月	單元	主たる 学習	教材	学習 活動	指導 事項	考慮 事項	ことばに 関する 事項	指導 目標	学 習 内 容	時間 備考
7	5~6	四 記 録	R	デ カン 高 原 に て	記 録	オ、 カ キ	ア	ア	A 通信の目的・意義を しる。B 効果的に自己の 思想を相手に伝える態 度・技能を身につける。	イ 手紙の意義を考える。 ロ 手紙に必要な点を考 えてみる。 ハ 通信の手紙を書く。 ニ 自己評価する。 ホ 評価する。	1.5
									A 見聞体験した事実を ありのままに、分類整 理して、記録がかける ようにする。	イ 記録の取り方・心構 えを考える。 ロ テープによって、短 い記録を書く。 ハ 校内討論会の記録 を書く。 ニ グループでその記録 をまとめ、作ってみる。 （自己との比較） ホ 評価する。 へ 夏休み課題への準備。	2
		三 小説 (一)	R	鼻	感 想	ア、 エ オ、 キ	ア		B 表現の場合構成を 考えるようにする。 C 自己の感想をもつ ようにする。	イ 「作文のでびき」 （読書感想文）を読む。 ロ 感想文を書く。「鼻」 ハ 評価	2
		一 詩と 随筆	R	樹 下	(感 想)			カ	A (目的) 標準的表記力を みる。B 表現力をみる。	イ 表記テスト ロ 一部分の表現につ いて感想文をかく	1.5
											メモ 抜 粹

三		二	
2	1	11	9
十	九	八	六
戯曲	論説	小説(口)	作文
H R	R	R	W
夕鶴	科学の方法	城の崎にて	(文章と個性) 作文教室 (文章について)
		感想	説明 (基礎指導)
エ、オ	エ、オ	ア、オ カ、キ	イ、ウ エ、オ カ、キ
ア	ア	ア	イ
			カ
<p>A 文章の分析力・構成力を身につける。 B 文章を要約して表現しうようになる。 (大意 あらすじ)</p>	<p>A 文章の分析力・構成力を身につける。 B 文章を要約して表現しうようになる。 (要旨 主題)</p>	<p>A 読書によって導き出された、一つの主題に対する深い感想を表現しうようになる。 B 短作文(100字以内)を推敲する。 C 説明文(説明文)を書く。(200字)</p>	<p>A 表現の基礎的能力を身につける。 B 説明文の意義をしつける。 C 説明文(説明文)を書く。(200字)</p>
<p>認解作業後「夕鶴」各段の段意をまとめる。 ロ各段の段意を総合してあらすじをまとめる。 ハ各段の段意を総合してあらすじをまとめる。 ニ各グループで発表・プリント ホ評価する。</p>	<p>認解作業前「作文のてびき」(文章の要約)を説明し、要約について考える。 ロ教材「科学の方法」をよみ、議論点を抽出。 ハ要約文(要旨)を書く。 ニ各グループで要約文を作る。(提出) 比較評価 ホ認解作業後要約文を作る。</p>	<p>単元三の復習「ここに表われた死の問題について」の感想文を書く。(800字) ロ「この感想文を書く」(800字) ハ「感想文を書く」(800字) ニハにおいて起こった感想を新しくまとめる。(提出) ホ評価</p>	<p>教材「作文教室」を読み、基本的な書く段どりについている。 ロ参考文(200字以内)を推敲する。 ハ各グループで推敲する。 ニ短作文(説明文)を書く。(200字) ホ(説明文の意義、書き方などを考える) 書く作業。 ホ概評 ヘ相互修正 ト原稿修正 チ文集プリント ホ清書</p>
2	2	2	11
要約	要約	抜粋	

第一表が、より基本的なものであるのに対し、第二表は、より実際的でとも言えるかと思う。

1 各学習活動について

A 「表現の基礎学習」

(イ)この学習活動設定の理由

表現の基礎学習については、すでに中学校で受けてきているはずであり、そう扱うのが至当なのであろう。しかし現実に入学してくる生徒の半ば以上が満足な表現の基礎的能力を有しているとはいえないのが実状であることは、そうした生徒に接している私達お互いが、同様、実感として持っているものともいえる。この点が、高等学校における作文の系統的な学習指導の出発点として、この文章作法的な「表現の基礎学習」の時間を設けた理由である。私としては、むしろこの学習を一年の段階での最も大きな目標と考えたいとさえ思っている。

(ロ)学習活動の目標

学習の内容からして、指導要領のすべての指導事項が包含されてもよろしいかと考えられるが、前述した「欲ばらない」という理由で、次のようにしぼって目標を決めた。

○重点的な指導事項

ウ 目的や場に即して、主題や要旨を明確にすること。

エ 主題や要旨に沿って、材料を適切に整えること。

オ 主題や要旨が明確に表わされるように、全体を論理的に効果的に構成して書くこと。

カ 適切な語句を選んで、照応が正しく、意味の明らかな文を書くこと。

ケ 当用漢字別表の漢字の使い方を身につけるとともに、その他の当用漢字の中のおもな漢字が正しく書けるようになること。

○考慮事項

イ 読み手に与える印象や効果を考えて、じゅうぶんに表現を練ることが習慣となるように指導する。

○ことばに関する事項（B項）

カ 語句を豊かにし、その意味と用法を身につけるとともに、国語の表記のしかたについて理解すること。

以上の事項を組み合わせて、「表現の基礎的能力を身につける。」という指導目標を設定したのである。

なお指導事項中「ケ」は、当用漢字に関するもので、これはすべての学習活動の中で常に考えられねばならぬものと思われるので、計画表の中では、このところ以外、特にはあげないことにしている。また、この目標の設定の方法については、以上によって大體理解できると思うので、後にでる学習活動の場合はいちいちあげることを省くことにしたい。

ロ教材

教材については、幸い、使用予定の好学社版「現代国語」に「作文」と題する、「書くこと」を主たる学習とする単元（第六）が設定されており、その内容が、この「表現の基礎学習」の教材として利用するのにきわめて便利にできていて単元の組み合わせには、はなはだ都合である。その教材内容は、第六単元「作文」に三つあげられているが、中心は「作文教室」にある。題材としてあげているものは、いずれも推敲練習のため

の参考文として利用するものである。

この学習活動は、前述したように最も大切な目標と考えたの

で、具体的な指導展開例として、第三表に取りあげておいた。

第三表 具体的な指導展開例

学期	月	単元	学習活動	教材	学習内容	具体的な展開	題材	評価	備考				
二	九	六 作文	表現の 基礎指 導	作文教室	<p>イ教材「作文教室」をよみ、基本的な書く段どりについてしる。</p> <p>ロ参考文を推敲する。</p> <p>ハグループで推敲する。</p> <p>ニ短作文(説明文)を書く。</p> <p>ホ概評</p> <p>ヘ相互修正</p> <p>ト原稿修正</p> <p>チ文集(プリント)</p>	<p>○表現の基礎指導</p> <p>1 教材「文章と個性」を読んで、文章にあらわれる個性について考える。</p> <p>2 教材「作文教室」を読んで</p> <p>イ 基本的な「書く段どり」についてしる。</p> <p>ロ 主題の統一、表現の明確さ、正しい語法用語、表記を事例について考える。</p> <p>3 参考文「スポーツの意義」(二〇〇字以内)または他の一文を各自推敲する。</p> <p>4 グループ(5人)で同じものを推敲し、自分のと比較する。(提出)</p> <p>5 グループのものをプリントし、評価表によってグループ評価する。(評価表提出!結果発表)</p> <p>○説明文を書く。(下記)(二〇〇字)</p> <p>6 題材の目的は何かを考えさせ、説明文の意義・種類・書き方などについて考え話し合う。</p> <p>7 書く作業</p> <p>段どり——下書き——推敲——清書(提出)</p> <p>8 概評</p> <p>9 相互修正を行なう。</p> <p>グループ(5人ぐらい)ごとに各自の作品を回しよみして相互に批評する。</p>	「スポーツの意義」	○「ク」ラフ活習した点目とす	○「私」の友「介」	○「私」の友「介」	○「私」の友「介」	○「私」の友「介」	○「私」の友「介」

	三	1 九	論説	科学の方	<p>読解作業前</p> <p>イ「作文のてびき」(文章の要約)をよみ、要約について考える。</p> <p>ロ教材「科学の方」をよみ</p> <p>イ論点抜き出し</p> <p>ロ要約文を書く</p> <p>ハグループ検討</p> <p>ニグループで要約文を書く。</p> <p>読解作業後</p> <p>ホ全員で要約文を作る。</p> <p>ヘ比較評価</p>	<p>10 評価表・批評プリントは本人がもらい(4枚)それをもとに、修正して書きなおす。</p> <p>11 できるだけ多数の者に発表させる。(提出)</p> <p>12 まとめとして一般的な長所短所について講評</p> <p>13 文集としてプリントする。</p> <p>14 教材「文章について」をよみ、いい文章を書くための心がけについて考える。</p> <p>○読解作業前</p> <p>1 「作文のてびき」(文章の要約)を読み、 イ文章の一般的構造をしる。 ロ要約のつ意義を考える。 ハ要約のし方について考える。</p> <p>2 教材「科学の方法」を読み、 イ各段落を推定する。(本文では行あき) ロ各段落の要点(論点)を示すと思われる文を探し出して抜き書きする。(要点メモ)</p> <p>a 段落が長いと感じる時は、小段落に切らせその中の・中心語句(キーワード)・結論的なことばをとらえさせる</p> <p>b 小段落の要点を概括し、段落の要点としてまとめゆく</p> <p>ハ各段落の要点を概括し、文章全体の要点をまとめ、接続詞などを加えて一つの要約文章を書く。(要旨・主題) (提出)</p> <p>ニグループで検討する。</p> <p>a まず要点メモをもとに、段落の要点を検討し合う。</p> <p>d グループで要点抜粋メモを作る。</p> <p>c それにもとづいて、要約の一文章を書く。(提出)</p> <p>○読解作業後</p> <p>3 全員で段落要点を整理、要約文を作成。</p> <p>4 各グループ・各自のものと比較・評価する。</p>	評 価	<p>○要約 文二種 を考 えさ せる</p> <p>(抜粋 メモ)</p> <p>○自 分の 比 較</p>
						<p>○家 庭 作 業</p>		

(二)時間および指導時期

時間は、その目標の上からゆったりととって おきたいと考
え、一応七時間を配当した。

なお、指導の時期であるが、最初私はその学習の性質上、一学
期に設定することを考えたのである。しかし、一応次の理由に
よって、教材の順序どおり、二学期におくことにした。

(a) 一般に生徒が抵抗を感じている作文の学習だけを、10時間
近く連続して行なうということは、まだ十分に気持のほぐれ
ていない一年の一学期よりは、二学期の方が指導しやすいの
ではないか。

(b) 一学期である程度でも生徒の作文能力を知っておいてのは
うが、より有効な指導を行なえるのではないか。

ただし、この考え方については、さまざまな異論もあることと
思われ、なかなか決定しがたいことであると思う。お教えをい
たきたいところである。そこで、この点については、最初の
単元で予定している、標準的な表記力表現力を見た上で、この
「学習」を一学期にもつてきうるといふ、単元順序変更の余地
を残しておくよう配慮している。

B 「その他の学習活動」

この「表現の基礎学習」を軸として、一年で予定した学習活
動は、第一表にあげたように、「通信」「記録」「説明」そし
て「感想」である。その他「考慮事項」(ア)にある「要約」
を、単に「読むこと」その他の学習の中で利用するだけでな
く、積極的に「書くこと」の時間として考えられるよう工夫し
てみたものもある。指導要領に示されている「学習活動」の

中、取りあげていないのは、「報告」と「論説」であり、これら
は二年・三年で取りあげてゆくことになるわけである。もちろ
ん、一年で取りあげたものも二年三年で適宜とりあげられて、
さらに広く深く確実にしてゆかねばならないことはいうまでも
ない。二年三年の計画の要点はやはりここらにあると考えられ
る。一年だけの年間計画の作成においては、この二、三年との
関連が大きな問題点と言えよう。

次に、「通信」以下の「学習活動」について、第二表と関連
させながら、概括して簡単に説明してみることとする。

(a) 「通信」

「通信」については、教科書単元の中には特に設定された教
材が見当たらない。しかし生活の中において最も日常的であ
り、どんな成長段階においても最もひんばんに用いられ、必要
とされている文章は、やはり「通信」ではないかと考えられ
る。その意味でたとえ少しでも、一年で学習させるべきである
と考えて、この学習活動を予定し、その時間を設けたのであ
る。内容については、第二表に見られるように「通信」を書く
気持をもたせることを主体として、生徒に特に形式はった点を
要求しないように考えたい。時期は一応夏休みにはいる前にお
いたが、これは夏休みという比較的「通信」を書く機会と余裕
のある時間をすぐ後にもつほうが効果的であろうと考えたから
である。

(b) 「記録」

「記録」を一応「見聞体験した事実をありのままに分類整理
して記すもの」と考えるならば、一年の段階として、その基本

的な態度と技能を少しでも身につけさせたい。練習の機会をもたせたい、と考えたのである。ところが、第四單元の中に設定されている「記録」の中にとりあげられている教材は三つあるが、「デカン高原にて」を含めて、いずれも「読むこと」を主体とした記録で、單元目標もそこにあり、直ちに書くための教材として全面的に利用するには困難を感じるものである。そこで、この「記録」單元の中に「作文」の時間をとることとし、内容としては、最も事実だけを必要とする「討論会の記録」をおいてみたのである。ただ、これは「聞くこと」にも関連する作業ともなり、それとの関連学習として考えなければならぬという問題が残っている。討論会については、例年行なわれる校内討論会の利用も考えられるが、また、録音テープ利用の方法もある。

なお、「読むこと」の教材としての「デカン高原にて」は感想記録として考えさせておいて、夏休み中に、あまり長くない「自然観察の感想日記」を書かせ、通信として送らせるという課題を考えているが、その準備をここでしておきたいと思う。

(c)「説明」

「説明・報告」という学習活動の中で、そのどちらが一年でとりあげるべく、より適切であるかは、もちろん問題もあることである。「報告」が読む者に対し比較的一方的であるのに対し、「説明」は相手に理解納得させることが大切である、とすれば、「説明」のほうが高次とでも考えられようか。しかし、「報告」ということばのもつ形式ばった、いかめしい感じより、「説明」の方が一般的には生徒に与える気分が楽であろうという単純な考え方から、「説明」をとることにしたものである。し

かし、この「学習」もまた、單元としての設定が特にならない。そこで基礎学習を行なう「作文教室」の中に取り上げられる事例および推敲練習のための参考文を利用し、それと関連して短作文練習をかねて「説明」の学習を行なうことにしたのである。時間は一応四時間をあてたが、これは「表現の基礎学習」との関連から余裕をもたせたもので、説明文練習とともに、短作文練習をかね行なうことを前提としているからである。短作文という点で、説明文そのものもきわめて限られた内容のものとなることはいなめない。学習は、第四單元「作文」の中で関連して行なうので、第三表にその具体的な展開例を示しておいた。

(d)「感想」

「エ、感想・感動などを文章に書き表わす。」という学習活動の内容が非常にあいまいであるということとは、今までもいろいろな論ぜられている。また「感想」随筆」「感動」詩歌」という考え方に対する疑問も示されている。「感想・感動」はもっと日常的なものと考えるべきであるとする意見も当然出てくるわけである。「感想・感動」をどのようなものとして指導するかは、やはり問題点の一つとして考えられねばならぬ点であろう。また、思い切って全く自由な感想をかかせてみることはいいってゆくか、あるいは、題材を限定してそれに対する感想を求めるところからはいいってゆくか、その両者についてもまた、論の分かれるところと思われる。ここでは、漠然とした感想を求めるよりも、具体的な内容を示したほうが、生徒にとって取りつきやすいのではなからうか。そしてまた、生徒自身が比較的親しんでおり、かつ、感想の、最も一般的集約的なもの

と考えられる。「読書から起こってくる感想」を、単元「小説」を主体に関連づけながら行なっていくたらどうだろうか、と考えたのである。そして、教材との関連で、この学習活動の内容を三段階に分けることとした。ただし、第一単元「詩と随筆」におけるそれは、表の指導目標にもあえて、(目的)と記しておいたように、この時間での指導は表記についての句読点程度にとどめ、入学してきた生徒の一般的な作文能力をみることを目的としたものである。表の学習活動に(感想)と記しておいたのもその意味である。次に一学期において、第三単元「小説一」では教材としてとられている「鼻」を読んで、最も普通な、全体的にとらえる「読書感想文」を書かせたい。ここでは、教材の中に特に「作文のてびき」として「読書感想文」という作文関係事項があり、これを利用してそれに従って指導したいと考えている。さらに第二学期後半の第八単元「小説二」では、「一つの主題に対する集約的な読書感想」を書くという、深まりのある感想文へと発展させるように考えたい。時間は第一単元で1.5時間、第三・八単元それぞれ2時間ずつを配当している。

(e)その他(要約・メモなど)

その他「考慮事項」(1)に「メモ・要約・抜粋・詳述など」の利用が述べられているが、それらがただ「読む・聞く・話す」との学習のために行なわれるものではなく、作文の時間として考えられない。そこで、第九単元「論説」に「作文のてびき」としてあげられている「文章の要約」という作文関係事項を幸い利用することを考え、ここに「書くこと」としての「要約文(主題

・要旨)を書く」時間を設定してみたのである。その具体的な内容については第三表に指導展開例として示しておいた。なお、要約の今一つの面である「(大意・あらすじ)をまとめて書く」学習を第十単元「夕鶴」において予定した。いずれも時間は二時間ずつである。

2 指導時期と配当時間

それぞれの学習活動の指導時期および配当時間については、以上の中である程度言及もし、また第一表第二表に大体示してある。

学期別では、第一学期に7時間、第二学期に13時間、第三学期に4時間となり、年間指導時数は24時間となり、「21時間以上」という指導要領の要請に一応こたえている形とした。

四 具体的な指導法(展開例)

具体的な展開例としては、紙数の関係もあり、第三表で、その「展開例」として「表現の基礎学習」、「説明」を含む第六単元「作文」、そして「要約」を作文として設定した第九単元「論説」をあげ、指導の手順をある程度細かく記してみたいので、ご覧いただければ大体ご理解いただけるかと思う。ただ、具体的な指導については何一つ目新しいものはなく、ありきたりな方法ばかりで、その点でもご指導を得たいし、また、実践の段階で大いに修正されなければならぬと感している。

五 問題点としての評価・その他

以上が、一年における作文の年間指導計画のあらましであるが、実をいうと、この計画はまだ完全にできあがっていると云えない。

(1) 評価表の問題

それは、個々の評価表がまだ作られていない、ということである。この年間計画が意味あるものになるか、無意味なものとなるかは、ある意味では評価表にあるとさえ感じている。

評価に二種考えられることはよく論じられていることである。一つは「指導のための評価」、今一つは「評価のための評価」。ここに計画した作文学習の内容の多くは、相互評価・グループ批評を多く用いている。それは少しでも、生徒自身が、作文学習への興味と関心をより多くもつようになりはしないか、なつてほしいと願ったからである。その場合の方法が、指導のための評価表の利用である。それはまた教師の側の処理・評価の問題にも役立つと考えられる。しかし、その評価表は、すべての学習にあてはまる唯一一つの形式のものには困難である。そこで、その学習のしぼられた目標から評価の観点を整理し、学習單元ごとに評価表を作成用意しておくのである。しかし、このたびはまだまだそこまで手がつかず、今後の課題となった。

(2) 他の学習（聞くこと・話すこと・読むこと）との関連づけの問題
さらに大きな問題点として残るのが、「現代国語」の中で、「書くこと」と他の学習「聞くこと・話すこと・読むこと」とを内容的時間的にいかに関連づけてゆくかということである。四つの学習を見渡した、総合的な「現代国語」の学習指導計画を考えてはじめて「現代国語」の指導が完成されるわけであるが、それらの中で「書くこと」をいかに位置づけるか。好学社版「現代国語一」を利用

し、かつ先生方のご協力とご指導をいただきながら、十分にはともそこまで検討していない。この点については、実のところ、もっと多数の力と多くの時間をかけ、広い視野に立って考究してゆかなければならない問題であろうと強く感ずるのである。

六 おわりに

おわりに計画作成に当たって感じたことをつけ加えておきたい。○「書くこと」すなわち作文の指導が内容的にも時間的にも、国語教育の指導の中に、はっきりと位置づけられてきた現在、その年間計画も個人の力だけでは、とても十分なものは作れないように感ずる。しかも、その立て方や指導の内容は全く多種多様である。この計画も何一つ新しいものはない。また、これではたしていいのか、もっと作文能力の発達の、段階的・体系的なもので、根本的に考えられなければならない点が多く残っているのではないか、といったおもしろいがある。その他具体的な指導法など、いずれにしてもいろいろとお教をたまわりたいことばかりで、ご懇篤なお導きをお願いしてやまないところである。

○ただ、まがりなりにもこの年間計画を作成してみても、とにかく年間を見通した指導計画（できれば三年間が最も望ましいが、せめて一年間だけでも）を考えておかないと、新指導要領の要請する「書くこと」の指導は、十全を期しがたいものになるのではないかと感じている。たとえ初めは不十分なものであっても、とにかく立ててみておくべきである、という、単純素朴な感想をつけ加えて、拙稿を終りたい。

— 37・12・18・高校教育課程研究協議会において発表したものを補訂したものである。— (広島県国泰寺高等学校教諭)